

Newsletter

映画英語教育学会 九州支部
The Kyushu Chapter of
the Association for Teaching
English through Movies (ATEM)

第7号

2007 (平成 19) 年 09 月 10 日
映画英語教育学会 九州支部事務局 発行

〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀 1-3-5
西南学院大学 人文学部 八尋春海 研究室
TEL/FAX: 093-583-5720
E-mail: kyushu_office@atem.org
URL: <http://www.atem.org/kyushu/index.html>
編集: 多賀 亜紀・與古光 宏・浦田 毅彦

Contents

page 1 巻頭言
page 2 第 13 回全国大会ルポ / 映画のトリビア
page 3 第 11 回 STEM 大会ルポ
page 4 映画『ソフィア』 / 第 9 回支部大会ルポ
page 5 映画英語 & コミュニケーションフェア 2006 ルポ / 新会員自己紹介 / 編集後記

日本から世界へ！

映画英語教育学会 九州支部

副支部長 高瀬 文広 (福岡医療短期大学)

ATEM 九州支部会員のみなさま、残暑厳しい時期ではございますが、お変わりありませんか。

常日頃から当支部運営に関して、ご理解とご協力を賜っておりますことをとても感謝しております。お陰様で、西南学院大学で開催した支部大会と映画フェスティバル、沖縄での全国大会、そして年 2 回の懇親会等、無事に楽しく終えることができました。

九州支部が 2000 年 2 月 14 日に設立されて 7 年の月日が過ぎました。その間、毎年支部大会を開催し、初代支部長である八尋先生発案の『映画オタクコンテスト』も大好評で現在まで続いています。支部大会だけではなく、九州支部では沖縄を含め全国大会を 3 回引き受けました。また、映画フェスティバルも 2 回開催し、映画英語教育学会の知名度が上がっています。

九州支部では支部大会後の懇親会以外に、夏と冬にも懇親会を開催し、会員間の親睦と交流が深まっております。学校の先生だけでなく、様々な業界からも参加者を迎えています。今回ギルフォード・カレッジから数名入会されましたが、皆さんアロマセラピーを研究している方々です。「映画」と「英語」と「教育」という 3 つのキーワードのもとに、今後も多くの方々が ATEM や当支部に関心を持たれ、入会されることを期待しております。

次に、将来のイベントに関して述べたいと思います。昨年、西南学院大学で当支部の第 2 回目にあたる『映画英語 & コミュニケーションフェア 2006』を、日本コミュニケーション学会と日本比

較文化学会との 3 学会共同で開催しました。当初、映画評論家のおすぎ (杉浦 孝昭) さんを、現在の支部長である中島千春先生のご尽力で特別講師としてお迎えする予定でしたが、資金不足のため実現は叶いませんでした。他にもニューズレター編集長の多賀亜紀先生ご提案であった、早稲田大学から講師をお迎えする案も実現できませんでした。このフェスティバル自体は成功でしたが、資金不足による企画縮小は非常に悔いが残りました。

そのリベンジとして、運営委員会では 2010 年に福岡で『国際映画英語教育祭 2010 (仮称)』を現在計画中です。国内だけではなく、韓国にある本学会の姉妹学会 STEM (映像映画教育学会) や他の国々からも参加者を募り、国際的なフェスティバルにしたいと考えています。参加者だけでなく、フェスティバルの内容もこれまでのものを数倍レベルアップして、国際映画祭も兼ねるようなものにしたいと考えております。一番の課題である資金についてはすでに公的機関より多額の資金援助を得られることになっており、昨年できなかった企画を世界規模で実施できそうです。

今後も当支部の運営に関して、皆様のご協力とご理解、そして、福岡での『国際映画英語教育祭 2010 (仮称)』が成功するように、皆様のアドバイス等を募集しております。「日本 (ATEM) と韓国 (STEM) から世界へ！」を合い言葉に、今後も当支部がますます発展していけることを祈念しております。

第13回全国大会ルポ

去る5月19日(土)に、沖縄県の琉球大学で第13回ATEM全国大会が開催された。個人的には2度目の沖縄訪問であり、ちょっと前(?)の20代半ばに訪れた時にはまだ無かったモノレールのおかげで、移動がとても便利になっているのに加え、モノレールからの眺めの素晴らしさで、到着直後から感激の連発であった。

本大会のテーマは「映画を使って文化の壁を破る」である。姉妹学会の韓国STEMからも25名の参加をいただき、益々盛大な懇親の場となったと感じている。最初に行われたワークショップでは「音声を操る」という題目で、専修大学の佐藤弘明先生の発表が行われ、次の開会行事では磐崎弘貞会長の挨拶に始まり、STEMのLee Ja Won会長、そして会場校である琉球大学の山内進先生の挨拶と続いた。基調講演の題目は「消滅の危機に瀕した言語から見た映画メディア」で、琉球大学の狩俣繁久先生が講演された。21世紀末までに現在の6~7千語の言語のうち95%の言語が消滅してしまうという現実的な問題から、日本語の中の琉球語(琉球方言)について、またその他の沖縄諸島の方言に於ける母音や子音の話など、とても貴重な内容だった。

総会後の昼食のためにキャンパス内の学食に向かう途中、「ハブに注意」という看板が数か所にあり、沖縄にいることを実感したものだ。キャンパス内の自然の素晴らしさ、特に沖縄特有の木々や花の美しさにはとても癒された。また、学食でいただいた「冷やし坦々麺」の美味に感激し、同席の先生方とも話が弾んだ。

午後からは3教室に分かれて、研究発表が行われた。英語による発表もSTEMからの2名に加え5名が発表され、質疑応答も英語で盛んに行われた。特に韓国での異文化教育とコミュニケーション能力のアップを目指した英語教育の質の高さには驚かされた。また、日本語での発表2教室に於いても、授業の実践報告などとても興味深い発表が次々に行われた。全部の発表に関心があったので全員の発表が聞けないのが、いつもながら非常に残念であった。

大会後の懇親会にもSTEMのメンバーを含む多くの方々が参加され、とても盛況なものとなった。体にやさしい沖縄料理も堪能し、沖縄の自然、また地元の人々のやさしさに触れた2泊3日の旅だった。
(熊抱 ゆかり)



大阪工業大学の井村誠先生と熊抱先生
~琉球大学と沖縄県花「でいご」の花をバックに~



懇親会にて
~STEM & ATEM(関西支部+九州支部)会員の
皆さん~
(近畿大学の朴真理子先生提供)

(熊抱 ゆかり)

映画ショッキング vol. 07

～アメリカ映画だけどイギリス映画！？～

平成 11 (1999 年) に公開された映画『ノッティン
グヒルの恋人』(Notting Hill)。これは、ハリウッド・
スターの Anna Scott (Julia Roberts) が英国だから
こそあるような Travel Bookshop の店主 William
Thacker (Hugh Grant) に恋をするというラヴ・コメデ
ィーである。有名人と一般人という設定は『ローマ
の休日』(Roman Holiday 1953) にそっくりだが、私
はこの映画を単なるラヴ・ストーリーというよりは、
英国の文化や背景を伝えてくれる映画として何回
も楽しんでいる。ロンドンが舞台であり、キャストや
スタッフも Julia Roberts 以外は英国出身者が大半
を占めており、英国色の強いものとなっている。コメ
ディーとしても、アメリカ映画のドタバタではなくて、
英国らしいユーモアのあふれるもので、中でも
William のルームメイトのウェールズ人の Spike を演
じている Rhys Ifans がいい味を出している。また、
その他の William の友人たちも個性豊かで非常に
面白い人物である。

私にとってこの映画が思い出深いもう一つの理
由は、公開された年にちょうど英国で研修を受けて
いたからである。毎日忙しい中ではあったが、たま
たま大学でこの映画が上映されることになり、観に
行くことになったのである。英国の街並みや風景が
好きな私にとって何度観ても飽きることはないし、
また観るたびごとに新しい発見がある映画である。
授業でも何回か使ってみたが、評判は非常に良か
った。

蛇足ながら、この映画の DVD やシナリオ本の分
類では、これは「アメリカ映画」となっている。しか
し、ハリウッドには珍しく「イギリス映画」的だと言
える。

今回は八尋真由実先生にお願いいたします。

(篠原一英)

第11回STEM全国大会ルポ

映画 *Independence Day* (1996)、*Godzilla*
(1998) と並んでニューヨークの街が破滅の危機
にさらされる監督ローランド・エメリッヒの映画
シリーズに *The Day after Tomorrow* (2004) とい
うパニック映画がある。主人公は気象学者の Jack
Hall という人物なのだが、その Jack が真剣に地球
環境の危機を訴えるインドの学会で知り合いに
なる Terry Rapson という老海洋学者が学会の感
想を別の同僚に尋ねられ、“Oh, you know what
these scientific gatherings are. All dancing
girls, wine and parties.” (本編の10分36秒)
と答えるシーンがある。

私は、韓国の学会を思い出すとき、上記映画の
シーンを同時に思い浮かべるのだが、それは勿論、
Lee 会長をはじめとする STEM (映像映画教育学
会) への多大な感謝も含め、映画と英語を心から
愛するもの同士が「ダンス(歌)」と「お酒」を通
して本当の意味での情報交換が出来る場である
とつくづく感じるからである。

さて、今年の第11回目の韓国STEM全国大会は、
4月21日(土)に開催された。場所は、慶州と呼
ばれる釜山から車で約1時間の長閑な田園風景が
広がる都市である。今年は例年と違い、TEMFホ
テルというホテルが大会の会場で、宿泊した Kolon
ホテルと同様、素晴らしいホテルであった。

大会の感想だが、驚くべきは各研究発表者の活
気はもちろんのこと、大会期間中に参加者全員を
手厚くもてなしてくれる大会本部側の素晴らしい
待遇である。私は発表者の一人であったので発表
するのに精一杯だったのだが、それでも昼食のあ
と、「仏国寺」(1995年に世界文化遺産に指定)、
「石窟庵」(統一新羅時代の宗教・芸術・科学の
集大成)、「大陵苑(天馬塚)」(12万5,400坪
の敷地に23基の古墳が保存されている歴史の宝
庫)といった韓国を代表する寺院、遺跡、そして
博物館を大学院生の Kim さんに丁寧に説明して
もらいながら巡ると、一気に眠気も無くなり、韓国
の壮大で奥深い文化に圧倒された。また、夜の歓
迎会および2次会(カラオケ大会)では日本人
とは一味違った「大陸気質」とも呼ぶべき韓国
の方々のパワーと明るさと優しさを目の当たりに
することが出来た。

私にとって今回の訪韓は2度目であったが、あ
らためて英語教育の大切さと、韓国の素晴らしさ
を痛感した大会であった。(大木 正明)

映画のトリビア vol.07
～ 普遍に通じる映画とは？ 思想とは？ ～

ハリウッド・メジャーと呼ばれる主な映画配給会社の創始者は全てユダヤ人とのことであるが、私には、映画、とりわけ西洋映画の見方を根本的に指南して頂いたヘブライ聖書の研究者の恩師がいる。恩師というよりも、年の離れた友人の様に今でもメール等で細く長くお付き合い頂いているが、仕事を終えた後、先生とばかばかしい話から映画や小説、哲学的なことまでを語り明かした二十代の愉快的思い出は、今でも私の宝物である。若くて有り余る時間があつた時のこのような出会いは僥倖であつたと思う。

個人の持続的な思索を可能にするのは、やはり書物、言葉ではないかと思うのだが、宗教書などの一節と違い、映画の味わい深い点の一つに、その映画と一緒に観た人、勤めてくれた人、好きな監督や俳優、というように他人との関わりが想起されるところがある気がする。旧約のコヘレトの「空の空」という言葉に、独り虚無の深淵に引きずり込まれる一方で、人間の日常、生死をまさに“淡々と”描いた小津安二郎の映画などを家族と観ると、静かな得も知れぬ感動を感じてしまう。

最近では、もうすぐ二歳になる子の育児中心の日々で、ゆったり映画など観る暇もないのだが、カンヌでパルムドールに次ぐグランプリを取った河瀬直美監督のインタビュー等をTVで観て、やや気になっている。「...形あるものによりどこを求めようとしても、満たされるのは一部。目に見えないもの、誰かの思い、光、風、亡くなった人の面影。私達はそういうものに心の支えを見つけた時、たった一人でも立っていられる」というような主旨の受賞スピーチであつたと記憶しているが、死者や他人、順送りされる命、子孫、森などの自然の摂理も、この地上のものは万物、「被造物」。永遠ではない。現在の科学では地球も太陽もいずれは消滅してしまうことは分かっている。それでも子供を産む意味とは？ 存在の意味とは？ 努力する意味とは？ 彼女の「殞の森」には人間の「真実」がどのように描かれているのだろうか...

と、何だか堅い文章になってしまったが、私は、映画は基本的には良質の（ドタバタではない）コメディが昔から好みである。人間の日常を突き放した視点で見つめると、喜劇になる気が何となくしてしまう。理性で捉えられない究極の未知なるものを語る時のみ、「神」が出てくるのかもしれない...

(村田美和子)

第9回支部大会ルポ

地球温暖化のせい、10月に入ってやっと秋の訪れを感じることができるようになりました。「秋」になると「勉強の秋」、「スポーツの秋」また「食欲の秋」言われてきましたが、私たちにとしては「映画の秋」でしょうか？ というわけで、昨年10月7日（土）に、福岡市早良区の西南学院大学にて、第9回九州支部大会が開催されました。

今回の支部大会も、いつもと同様リラックスした和やかな雰囲気の中で楽しく行われました。

まず、與古光先生の司会のもと、支部総会では、1) 本部事務局の人事、2) 2005年度と2006年度の活動報告、3) 会計報告などを受けその後、恒例の映画オタクコンテストを楽しむことが出来ました。今回の協賛は、九州三菱自動車、キャセイパシフィック航空、福岡歯科学園で、さすがに映画に関心のある方々が数多く出席されているだけあり、ほんの数秒？ しか流されないfilmの一部からそのタイトルを多くの方が答えることが出来、協賛いただいた各団体からの思い出に残るプレゼントをgetできました。

すでに会場は盛り上がりを見せていた中、午後2時過ぎより二会場にわかれて、今回は合計8つの研究発表を聞くことが出来ました。

時の流れとともに、ビデオからDVDへと移行して、以前のように映像の劣化を気にすることもなく、授業等で使いたいシーンを何度も、しかも即座に検索できる利便性は、画期的なものと言えます。

しかし、諸先生方の研究発表からもわかりましたが、DVDの使用で一見便利にはなってきたものの、実際の英語教育において映画を使用する場合、その事前の準備には多大の労力が必要であることは言うまでもありません。今回の発表では、そのような問題を少しでも解決するのに役立つコンピューターのアプリケーションソフトの利用法や、Caption DVDを駆使した教材の効果的な使用方法について学ぶことができました。

また、学校を舞台にした映画である "School of Rock" や "Dead Poet Society" などを取り入れた英語授業の実践的な取り組みから、教科書や問題集ではなかなか学習できないカジュアルな口語表現、日常実際に使われる英語の敬語表現を含め、生きた英語を学ぶことができました。それと同時に授業における映画の効果的な導入法や映画英語を通して異文化理解をいかに深められるかも知ることができました。

書面上、実践研究発表に関してすべてを網羅することができませんでしたが、それぞれの発表から新しい発見や授業でのアイデアを得ることができ、参加者がお互いに交流を深めることができました。大会後、会場近隣で開かれた懇親会もさらにリラックスした雰囲気でお互いに歓談することができました。

今後の大会も楽しみです。皆さん、ふるって参加しましょう。

(鹿子木 一郎)

映画英語 & コミュニケーションフェア 2006 レポート

昨年は、支部大会の翌日、10月8日(日)に「映画英語&コミュニケーションフェア 2006」を西南学院大学において開催しました。フェアは2000年の中村学園大学での開催以来でしたが、今回も映画上映会(『ディック&ジェーン』)など、様々な催しが行われました。講演では、アロマセラピストのイネス多恵子先生を初め、多彩な講師の先生方から大変興味深い話をうかがうことが出来ました。また、「お仕事発見コーナー」では、学生に人気の業界から講師の先生をお招きし、体験談や業務についてのお話をいただきました。就職を前にした学生にとって、貴重な経験となったようです。

支部大会と異なり、このフェアは、教員だけでなく、学生や市民の方など、あらゆる参加者に、楽しんで、学んで、そして、ATEM について興味を持っていただける良い機会です。次回の企画もすでに計画されつつあります。次の「お祭り」も是非盛り上がりましょう!



イネス先生(写真右)には、英国貴族社会の日常についてお話をいただきました。



エレンベルグ先生には、英語面接の受け方についてお話しいただきました。

(中島 千春)

九州支部新会員 自己紹介 (五十音順、敬称略)

・イネス 多恵子 (ギルフォード・カレッジ・オブ・アロマセラピー)

英語圏である香港に11年、英国13年と長い居住生活の中で、今でも一番のネックが英語と言う私がこの会に出会い、今から英語、人生知識の吸収期としての成長チャンスを生かしていきたいと思えます。

・和田 宏子 (ギルフォード・カレッジ・オブ・アロマセラピー)

映画と言えば、音楽! だった私ですが、この会に参加させていただいて、音楽とともに言葉(言葉)の持つ素晴らしさに触れたいと思えます。好きな映画は勧善懲悪とコメディです。どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

新体制で編集する Newsletter も第2弾となりました。今回は初のカラー印刷でしたが、いかがだったでしょうか。実は前号においても出版案内等の画像はカラーでした。ただし編集段階の原稿においてであり、皆さんのお手元にはモノクロ印刷でお届けしました。これまで編集委員しか見ることでできなかったものを皆さんにお見せできて感慨深いものがあります。内容の方も皆さんのご協力の下、一層充実させていきたいと思えます。

個人的なことですが、画像を取り込んでの編集でいつも苦労しているのが、微妙なレイアウトの調整です。私は長年 Mac を愛用しています。ワード文書の読み書き自体は問題ないのですが、Windows で開いたときは少々違った表示になり、厳密なレイアウトの確認には Windows 機が必要です。新しい Mac は、Windows 機にもなる優れたもの。新調して編集作業の効率をあげたいと思案中です。
(浦田 毅彦)